

野洲市民病院整備に関する市民懇談会② 報告

日時：令和4年6月18日（土） 午後2時00分～4時11分

場所：コミセンひょうず

【小池】

皆さんこんにちは。予定していた時刻となりましたので、野洲市民病院整備に関する市民懇談会を開催させていただきます。

私は、本日進行務めます、政策調整部次長の小池でございます。よろしくお願いいたします。

本日の市民懇談会は、野洲市民病院整備に関する新たな場所と方向性についてご説明をさせていただきます。その後、皆様と意見を交えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、開催に当たりまして、記録等の作成上、写真撮影と発言内容の録音又は筆記による記録などをさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは初めに、開会に当たり、市長の栢木より、ご挨拶申し上げます。

【市長】

みなさんこんにちは。土曜日の昼下がりに、陽気の時間帯に説明会ということで、たくさんの皆さんにお越しいただきました。有難うございます。

私、ただいまご紹介のありました、野洲市長の栢木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、開会にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には平素から野洲市のまち作り格別のご高配を賜っておりますことに対しまして、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて本日は本年1月14日に熟考を表明して以降ご心配をおかけいたしておりました、野洲市民病院の新たに見定めた整備場所と、その実現に向けた推進方策等をお手元の資料に基づき説明をさせていただきます。

その前に少しお時間をいただき、この新たな方策をお示しするまでの経過と、その都度の私の判断の内容について述べさせていただきます。

ちょっとお時間をいただきますが、お手元にお配りしております本日の次第に、述べさせていただきます私のメッセージとして記載させていただいておりますので、ご参考にしていただけたらありがたいと思います。

私は令和2年10月の市長就任において、駅前にはぎわいを創出し、税収を図る場として、新病院整備は行わないことを申し上げ、市民の皆様からのご審議をいただきました。

そして、駅前整備の代替案として掲げていた現地建て替えについて、就任後すぐに公的な検証を行っていただきました。

その結果、建築技術的には可能ながら、医療を運営しながらの施工は困難というものでございましたことから、やむなく断念をいたしました。そこで立ち止まることなく三つの候補地を示し、令和3年5月には駅前 B ブロックで病院を整備することに優位性があると判断いたしました。

このとき私が B と判断した最大の根拠は、駅前以外の場所で整備しようとした場合、病院事業債、いわゆる借入金の一括償還や社会資本整備交付金の不交付などで財政的な負担が大きく、昨年に今頃の市や病院の資金状況では対応できないとする試算結果を是と判断したことでございました。

そして市の関係計画等との調整に多くの時間を要し、病院の早期整備を望む市民の願いに応えられないと進言されたことや、当時の市議会の状況を見て、B ブロックであれば市議会に託された駅前を望む議員にも添えると見込んだためでございます。

しかし10月に状況が大きく動きました。市議会議員の改正により、議会の総意に変化が生まれ、本年1月5日には市議会の最大会派から、B ブロックにおける病院整備を速やかに断念し、新たな用地に整備すること等の要望書が提出されるに至りました。

また同じ頃、鋭意検討を進めていた駅前にブロックでの新病院整備の計画の草案が上がってまいりましたが、駐車場がわずか40台で、車寄せも少なく、動線も極端な縦型になってしまうその内容を見て、これでは市民の医療を持続的に担える病院とはなり得ないのではないかと憂慮するに至りました。

そしてそもそも混雑しがちで市内各所からの車でのアクセスが困難な駅前に、全ての市民に公平に使いやすく、あるべき市民病院の整備できるのか、また、野洲市全体のまち作りの起点というべき駅前南口に、本当に病院が最適な施設なのかと改めて思いを巡らせるようになり、1月14日、別の選択肢も視野に、市長執行部として熟考すべきと判断したものでございます。

熟考当初の頃は市民の皆様よりのご意見、その他、野洲市内の開業医の先生を含む複数の医療関係者の方々からも、ご提案やアドバイスをいただきながら、野洲市の将来に禍根を残さない最良の選択を目指し、B ブロックも対象に検討熟慮をしておりました。

しかし、3月議会も終盤に、野洲駅前Bブロックでの病院整備事業の早期再開についての決議案が提出され、3月25日、賛成が7人という少数で、はからずもを否決されてしまうことが起きてしまいました。

私はこの B が否決されたという事実を極めて重く受け止め、そして4月に入り、今日お示しする内容で整備するよう地域医療政策課に指示したものでございます。

今回ご提案申し上げる新病院の整備場所は、野洲市総合体育館の温水プール跡地でございます。

この場所は昨年検討した三つのうちの一つ、体育館裏と接近し、近接し、一部重複する場所でございますが、優位点はそのままに、当初に問題とされていたいくつかの大きな課題をクリアできる場所であると考えております。

そして何より、本市のほぼ「中央」に位置し、市内各所から車でアクセスに優れ、市街化区域に隣接した利便性の高い場所であり、新病院の優良な整備場所であると考えております。

この提案は本市のまち作りに関わる政策の大きな変革であり、新病院整備と駅前のにぎわい作りという二つの大きな課題を健康を基軸としながらも、事業としてはすみ分けて推進しようとするもので、市民の安心と安全を支える中核的医療の確保を確実なものとしつつ、駅前でのにぎわいと税収を生み出す可能性をいろいろ希望の持てる持続可能なまちの創造を可能とするものでございます。本日はこの新たな方策の内容をお聞きいただくことで、これまでご心配いただき、ご懸念いただいておりますことも、払拭していただけたらと思っております。

長くなりましたが、本日は本計画の実現に向け、皆様方には忌憚のないご質問やご意見を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。

お時間をいただくことへのお礼と、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

この後、内容を担当部からご説明申し上げますので、よろしくお願い致します。

【小池】

それではここでお時間をいただきまして、事務局を紹介させていただきます。
健康福祉部政策監の布施でございます。

【布施】

病院整備を担当いたします、布施でございます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

【小池】

健康福祉部次長の駒井でございます。

【駒井】

同じく次長の駒井でございます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

【小池】

政策調整部部長の赤坂でございます。

【赤坂】

政策調整部の赤坂と申します。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

【小池】

改めまして、私は、政策調整部事業の小池でございます。その他本日、地域医療政策課、企画調整課の職員3名が、会場の内外におります。名札を着用しておりますので、一人ひとりの照会は、省略させていただきます。

野洲市長の栢木でございます。

【市長】

どうぞよろしく願いいたします。

【小池】

副市長の佐野でございます。

【副市長】

副市長の佐野でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【小池】

すいません。それでは市民懇談会に入らせていただきます。

お手元の資料について、地域医療政策課よりご説明申し上げます。

【 以下説明箇所は省略 】

【小池】

それでは、ここからは、皆様方からのご意見、ご質問をいただければと思います。

順番にお伺いしますので、その場で挙手をいただきましたら、係りの者がマイクをお持ちいたしますのでお願いします。

なお限られた時間でございます。ご質問ご意見は可能な限り今ご説明させていただいた内容から大きく逸れることのないようお願いしたいと思います。またご発言の前には、お住まいの地域とお名前を申しただければ幸いにございます。ではよろしく願いいたします。

【市民】

下堤の■■■■■をしております■■■■■と申します。今説明を聞かしていただいて、これまで聞いてきた説明と、こんだけ説明が変わるんやろか、そういう考えです。

今まで野洲病院はね、市民病院にするときにいろいろと検討はしていただいたと。その中でAブロックでやっていこうという決めていただいた。そのときにも、こんな駅前の高い土地じゃなく、郊外は考えられへんのか、こういう意見が大半出てたと思うんです。その中でいろいろと考えていただいて、駅前には JR があるんで、いろんな方が来ていただきやすいんだと。高齢者の方も来ていただきやすい。だから経営がよくなって、病院は将来黒字になるんです。こういう話でしたわね。

これが今急に、郊外って。車で来てくれはる方が多いんです、こんな話ですが、前のときは車なんていうことで却下されてたんですよ。今の時代、高齢になってそんな車で行かん、とかっていうことで、駅前に持って行って駅前でないとかかんとなった。のに、今になって郊外という。そう病院を作るのはね、私もありがたい話ですし、私も当初は郊外でという思いをしてたんですけど。

ただ今聞いてると、駅前できちっと説明したやつを全部否定してる。当初そのだけのことはしっかり検討はされてなかったんですか。市長、こういうのは検討されたんでしょ。市民病院するとき

に市長は議員で見てもらったはずでしょ。いろんな検討されて、本当にこの5万人の市が、市民病院を持つのはどうだろう、あのときちょうど守山市民病院が済生会病院になるというそんな時代やった。その中でもやっぱり野洲は市民病院を持っていこうということで、いろいろと皆さんの知恵を借りて、駅前のAブロック、ここやったら、多くの方が来てくれはるさかい、黒字にもなるんやと。で、駅前にバーンとしたやつを建てて、野洲の玄関口とするんやと、こんな話やった。それがBブロックになるは、現地になるは。最終的には、今まで高压線であかんとかいうてたところに、人が来るのに駅前は駄目だからここへ持っていくと。この考え方がどうしてもわからへん。このへんをしっかりと説明していただけませんでしょうか。

【市長】

当時Aブロックで病院を整備するということすすめられていた頃に、私は確かに議員をしておりましたが、そのときも、一度たりとも、駅前に賛成したことはございませんでした。収支が本当に成り立つのか、いろんな面で。やはり野洲もそうですし、滋賀県もそうなんですけど、車社会なんです。車社会、現実車社会の中で、なぜ駅前に整備するのか。本当に、野洲市民が、電車を利用して病院に来るのかということ、当時私は申し上げておりました。若干の市民の方は、篠原駅から野洲駅にっていう方が、この前のお出会いをしておられましたけれども、大半の方は車で移動されるということ、当時から申し上げておりましたし、なぜ駅前なら収支が成るのかということについても、私は当時から疑問を持ってました。

で、今、郊外という言い方をされますけれども、私は決して野洲市全体がそないに大きい街やないと思うんですよね。だから、どこが郊外でどこが中心で、言うてみりゃ駅前は市の人口的な中心になるとは思うんですけれども、市民は駅前だけじゃないです。やっぱり、いろんなところに市民は点在しておられる。その市民全部を網羅していこうと思ったら、中央の場所がいいだろうということで、今の場所を私は出させていただいた。Bブロックにしたことは、先ほども、ご挨拶でも申し上げましたですけれども、1年前の野洲市のいろんな状況を踏まえますと、とてもやないですけども、当時、体育館とか、もう一つ、ふれあいセンターというところも出しましたですけども、そこへ持って行くだけの財力が当時なかったんです。だからBブロックで整備する方向性を、当時は去年の5月ですが、お示したという理由は、そういう理由でございます。

だから、私は今のこの提案は、野洲市民にとって、将来にとって、本当に一番良い場所ではないかなというふうに確信しておる次第でございます。

ちょっと短い言葉で申し上げておりますので、しっかり理解していただけたかどうかわかりませんが、そういう思いで今の場所としておりますのと、当時の議会におりました議員としても、一貫してそれを申し上げてきたのと、選挙でも、市長選挙でもそれを申し上げたということです。

【市民】

今の話ですね。Aブロックやと黒字になる、それも信じられないという話だけれど、じゃあ今のところ、体育館の横でやったら、それはいけるんですか。

【市長】

それを、予算をお認めいただいて、きちっと精査させていただくということでございます。今の状況では…。担当の方からその件については説明させていただきます。

【駒井】

ありがとうございます。市長が申されましたけれども、いけるかどうかを精緻に検証するのが、今議会で予算をお認めいただいた後の基本計画策定という作業となっています。ただ、申し上げたいことですが、冒頭ご説明をさせていただいた、一番最初のページの下の資料、病院の機能というものは、駅前であってもこの場所であっても、変える余地がないと考えてございます。

ご存じかもわかりませんが、決して外来を軽視するわけではないのですが、病院の経営というものは、特にケアミックス病院の場合は、入院の機能が病床がどれだけ埋まって、なおかつどれだけ短期で入院期間を設定できるか、そういったところに病院経営の成立の知恵がございます。これは事実でございます。

そういったところから考えて、十分成り立つと、今のところはそういうふうを考えております。市長がおっしゃるように、しっかりとしたエビデンスというのは次の段階になりますが、見込みがないことを無視してこういう計画を提案することはない、ということです。

【市民】

精査した結果、成り立たないということであれば、もういっぺんーから考え直すということか。

【駒井】

成り立たないと、万一なった場合は、経営手法、あるいは病床の構成など、経営の方法を工夫していくということになるわけでございます。この場所は、公的な市民病院でございますから、中主、あるいは市内各所から、同じ納税者である市民から、公平にアクセスできるというふうを考えてございますので、この場所を変えるということは、今のところ想定は当然してないということで、ご認識いただけたらと思います。

【市民】

もう一つだけ。今言うたように、市民病院やさかいに野洲市の人に来ていただきやすいように、市民病院にするときもそういう話はあったやんか。車で行くのがほとんどやさかい郊外でも十分じゃないかっていう話は。そしたら、いやいや郊外では採算が取れないんですよ、駅前だからJRを使

うということで、この病院を使ってくれる方の圏域ですか、何かの区域を大きく取れるんでこれだけの人数の患者が来てくれはるんだという話でしたよ。今の体育館のところや中主のさざなみホールの横のそこは、近江八幡やの病院と喧嘩というとおかしいけど、取り合いになるから経営が成り立たない、こういう話でしたよ。それが何でここで変わるんやろね、と。

【駒井】

ご意見ありがとうございます。

今おっしゃったようなことは、そういう説明が以前あったということは事実だと思います。しかし、ここに書いてございますように、今回、初めて、郊外病院に向けた客観的検証を行った訳でございます。

それまでは、駅前で展開する検討のみが市の中で許されていたわけございまして。私の口から申し上げることではございませんけれども、今回新たにこういう政策が打ち出されたということでご了解を…。

【市民】

市長の皆さん、立候補しあって、現地建て替えということで、現地建て替えは駄目やということで、そのときに、駅前かここか、さざなみホールの三つかでいろいろと検討され、やっぱり駅前にBブロック行こうってなったんとちゃいますの。そのときにも、ここは車で行けないとか、高齢者のなんやらとか、こんな話で全部否定してきたんでっせ。もうちょっとしっかりと、こうやさかいにと整理してもらわんと。今まで俺ら、散々聞いてきた説明というのは、中途半端な検討だけで説明されたのかな、と。こんなんしか思えへんのやわ。

【市長】

先ほども申し上げましたけれども、駅前以外の想定をされてなかったんですよ、過去は。過去の話ですけど。だから、何ら根拠がなかったんですね、今まで。

私が市長にならしていただいて、当初、皆さんにご迷惑をおかけしました現地建て替えを予定してたんですけども、技術的にはできるけども、医療を運営しながらは、医療関係者から反対されてですね、それを押してまではやめようということで、断念をした。この断念をしたことに関しては、本当に住民の皆さんには申し訳なかったんですけども、その後どうするかということで、Bを選ばしていただいた。なぜなら野洲市は基本的に資金というんですか基金が枯渇してた状態だったので、改めて土地を購入してとか、時間をかけて整備できないという、いろんな課題があった中で、じゃあどうしようかということで、これは先ほど申し上げたように B の方向性を示させていただいたということなんです。だから、郊外って、私は郊外やとは思ってないんですけども、他のところの場所で収支が合うか合わないかということは、過去に私が議員をしているときにはあったんで

すけれども、駅前がいいのかどこがいいのかと言われながらも、駅前でなかったらあかん。これも先ほどの説明の中にありましたけど、それはなぜかという根拠がなかったんですよ、当時。何度言っても、郊外では収支が合わないやと言われる。だから、今、そのへんを根拠付けていくわけなんですわ。

2kmほどですわ、離れてるのは。2kmぐらいでね、大きな収支の変化はないというふうに思っております。でも、それは思ってるだけで根拠がないから、それを精査させていただこうということで進めさせていただいてるということなんです。

【市民】

三つほど質問したいと思います。

まず今回は市議会選挙の関係でね、やり方が変わり、候補地が変わったりしましてね。これ困難の原因になってるわけですよ。ということは、次の議会でもまたメンバーが変わり派閥が変わるとですわ、また方向が変わっちゃう。着工寸前やということになったとき、どないすんねんなど、非常に心配しとるわけですわ。私らは早くしてほしいというのが多いですわ。そういうね、バタバタしてね、駅前は20年ほったらかしやというような、こんな恥ずかしいことやめてもらいたいと思うんです。

したがって、ここにもメンバーいろいろ言われますけどもね、60人ぐらいですわ。

派閥の議員さんは、それぞれ立候補するときは、体育館でやらしたいなんて、言うてまへんで。みんな派閥できて、それで合意でもって、応援者に関係なしにね、体育館ですわという方もおられますわな。それが最大派閥らしいですわ。最大派閥が次の選挙で変わったら、どないすんねん。いつまでたっても決まらへんやん。

従って私はね、こういうね、もうメタメタやったら止めてもらいたい。どないしたらええか。やっぱり、皆さん方に聞いたらええんや。住民投票したらええねん。したがって、私としては体育館にしたいと、こういうメリットとデメリットがあります、過去の話でこういうようなことがありました、ということをお詫びしていただいて、一遍、聞いてや。そしたら、国民投票じゃない、住民投票は総意なんやから。

従って A がええとか、B がいいとか、C とか。旧の場所そのままにええんちゃうとか、いろんな奴がギャーギャー言うとするわ。ギャーギャー言わんとくにはね、やっぱり総意やね。

従って、議員さんには任せられへん。何故か。すぐ主義を変えるから、したがって、やっぱりね、住民投与してほしいな。これは総意なんやから、議員さんは、個々の代表と利害関係が絡んできよるから。これはもうわかりやすいからね、駅前の住民さんのバックアップを受け取る議員さんやったらな、その利益で動きよるやん。一般住民の声を聞きよらん。そういう形でご検討いただいた方が、今回の案がもしよければ、非常に賛成が出るんじゃないかな。多けりゃいいんやから。

二つ目。駅前についてですけども、駅前にはぎわいをすると。そして税収をやると。いうことがあったらいいこっちゃなあとと思うとったわけです。まさかパチンコにするんやないかとか、引っ張ってくるんやないかと思ったんですけども。またイオンは来えへんし、平和堂来えへんし、どないするんやろと思うとったんですけども。これ良かったと、こないしてね、文化施設を作ったら結構なんですけど、具体的に何すんねや。体育館は一つあるのに。また造るんか。

私は、ここは売ってお金を入れるんじゃないかと。それで税収を上げると、いう意図やと思うとったわけです。ほんで、マンションは多分できるでしょうな。そしたら人口が増える、ああ、ええこっちゃなと思ったんですけども、こんな施設また二つで作ってな。体育館言うたら、土日しか動けへんで。平日がらがらやがな。ゴーストタウンが駅前にでできることになるやん。これがええんか、ということです。税収をするという公約はどうなってんねん。

三つ目、今回一応60人ぐらい集まってますわ。今回は各コミセンでいろいろ意見聞かれますけれども、参加していない人はわからない。どんな意見が出たか。また配布資料をもらっていない。わからないものはわからないままで、各人の思惑で動きよる。

従って今回の案はね、いいとしたら、やっぱりそれを広報するという方法を考えなあかんわな。従って、一応どういう形で広報されるか知りませんが、広報するのに良いの悪いのわかってるわけや。みんな。で、ぶっちゃけた話ね、市長さんはもう、ちゃぶ台返しで、ひっくり返しで、もうえらいやっちゃ。今度市長選挙あったらね、落としたらうと、みんな思ってる方が多い。そりゃ、そうや。

ところがね、今回の案を聞いてとったらね、非常に建設的な感じがします。私だけね。従って、これはやっぱりね、総意をまとめなあかん。そのためには、やっぱ広報せなあかんやろな、広報。そうしないと、市長の考え方は、ここ60人のうち半分は伝わっても、残りは知らんで。だって市民全員には伝わりませんな。やっぱり広報は、上手にやってやらなと思いますわ。結果としてやっぱりね、住民投票や。やっぱり、みんなに意見を聞くというのが大事だと思うな。住民票等の機関決定やから、それが難しい、トラブルも、また議員の変なのが、また反対するかわからへんから、やっぱりあの裏ではやっぱりね、1,000人ぐらいを対象にこそっと、調査したらええと思うな。そしたら大体1,000人ぐらいから統計的にも大体データが出るから。そしたら、こらいけるな、いけへんとかね、やっぱり A案に固執するのが多いなとか、いろいろ出てきよるから、そこら辺を全部分析してほしいな。こんだけ60人のやつでね、総意とは限られへんと。みんな、わかったかいうと、わかってないと思うよ。一応、市長さんの考え方わかったけども、このままやっていかどうかは、やってみんとわからへん。

ただ皆の総意としては、早くして欲しいというのがある。早く。こちらはA案でも何でもいから、早くしてほしいのがあるわけです。それが今まで20年もほったらかしやがってね、いまだにもたもたしとるから、頭に来とるわけよ。

だから私が今言いましたように、三つのことをお願いしたいと思います。

以上です。

【小池】

はいすいません。

ご発言の前に地域、お住いの地域と…。

【市民】

栄の■■■です。

【駒井】

ありがとうございます。先に広報についてご意見を頂いております。

この方針の内容につきましては、既に2回、市内7カ所で市民懇談会の開催を予定しております。おそらく十数年ぶりに市内7カ所で開催をさせていただいているところでございます。それと、いわゆる全市民へのアナウンスについてはですね、今の議会で予算をお認めいただくようお願いをしておりますが、年2回分を計上しているんですけども、A3の大きな紙で、わかりやすくですね、今回の計画を入れさせて、夏ぐらいにはこの計画についてしっかりと皆様の下にお届け出来るように、広報したいというように考えておるところでございます。

これ以降については市長の方のご見解ということになりますけれども、一つだけ申し上げますと、住民投票、これは、事実としてご承知いただきたいんですけども、住民投票は、平成29年に一度しました。そのときに、ルールで50%行かなかったら開けられないんですよ。その時、実は49.%, もうちょっとのところが開かなかったんです。開かなかった、市役所が開けなかったのではなくて、そこまでいかなかったということでしたので、住民投票に対する市民の考えは、その当時は、そういうお考えだったのではないかと我々は承知をいたしてございます。

以降は市長から申されます。

【市長】

市議会議員選挙で変わったということですが、やはり、日本全部ですけども、議会制民主主義ということで、自治体、国もそうですけどもそうですけれども、それで皆動いているわけですから、去年ありました市議会議員選挙は、一定の市民の意思というんですか、市民の考えが反映されているものというふうに、民主主義の中では、判断させていただくべきではないかな、というふうに私は思っております。

だから、議員に対して厳しいお言葉もありましたですけども、議員には任されないとか、個々のお考えがあると思うんですけど、今日もちょっと議員の先生方もお見えですので、私からその件についてコメントはなかなか辛いんですけども、住民投票につきましては、今次長が申し上げた通りでございます。

議会の構成が変わったり、議員の決議、議員さんによる決議が否決されたりというのは、やはり議会制民主主義の中では重く受け止めなくてはならないという意識で申し上げているということでございます。

【市民】

駅前への税収は、ずっと入ってけえへんで。計画では。

【市長】

駅前への賑わいの創出というのは、以前から申し上げてるんですけども、民間の活力を活かして、活力で駅前を整備していくということ、ずっと申し上げております。

今言われましたけども、駅前を売るということを前提にするということではなく、民間が例えばリースをしてほしいと言われたらリースもするし、売却をして欲しいと言われたら売却にも応じるというような形で、いろんな形で駅前への賑わいを創出するということを考えて、サウンディング等々をしながらこれから進めていくということ、ご説明申し上げております。

駅前への賑わいとかいうと、すぐスーパーマーケットとかそういうものだけを指されるんですけども、スーパーマーケットとかそういうものだけではないということでの駅前への賑わいの創出を考えております。

【市民】

ですから、駅前への賑わいというものは、具体的にはどういうことを目指すねんや。どこの駅をモデルにして。

【市長】

どこの駅をモデル、野洲駅だから、どこの駅ってというのはその地域地域によって特性が変わってくると思うんですね。人口のバランスもありますでしょうし。駅前といえどもどういう駅かはわからないということもありますので。例えば大阪の駅を真似しようなんて、全然そんなもんでできるに値しいひんと思うんですね。だから、それをこれから調査してやっていきますというお話をしているわけです。

【市民】

税収どうすんの。

【市長】

だから、駅前をその民間に整備してもらったら、当然、建物建ててもうたら固定資産税も入りますし、そこで売り上げが上がり、収益が上がってきたら、法人市民税なり、いろんなものが入ってくるという、その税収なんですよ。

【市民】

方針には、そんなん書いたらへんやん。資料には文化スポーツゾーンって書いたんで。

【赤坂】

政策調整部、赤坂と申します。

ただいまご質問出ておりますのは、先ほどこちらの方に出ておりますこの部分のことを指しておられるかと思えます。この部分につきましては、平成24年から駅前全体ですね、今黄色のこの駅前のところから、一番左上の、今おっしゃっている文化スポーツとおっしゃってるところを含めて、全体で32,000㎡でございますけれども。その全体をどのような形でやっていくかという検討会の方を立ち上げました。検討会の方には、関係団体あるいは市民の代表等々入っていただいて、そのときに駅前に必要な六つの機能ということを示唆を受けまして、そのうちの 하나가、文化スポーツ施設ということで位置づけがございます。これは先ほど言いましたように、平成24から26年にかけて、その後いろんな大学の先生方の協力をいただきまして、市民の皆さんとワークショップのような形で話し合い、いろんなことをやりまして、27年3月に最終的に計画を確定させていただいた。

しかしそこからもう約7年経っております。それと、今市の方が提案しております病院の場所が変わる等々、駅前のいわゆる機能の部分が変わってきます。そうなってくると、あるものの機能がなくなってくると、それをまた変えるということになりますので、全体的な見直しをしようと、その見直しを今年度させていただこうということで考えております。

それと、先ほど税金の話が市長からありましたけれども、当初の計画でいきますと、Aブロックに病院、Bブロックに駐車場、それから文化スポーツなどの部分についても公の施設的な、そういうような考え方が多くございますけれども、それを総て公で整備しますと、そこは公ですのでね、土地・建物の税金というものが入ってこないことになる。それを、特に駅前のロータリーに近い部分で、これを栢木市長が市長になられてから、駅前のにぎわいの税収ということで、官民連携ということで、民間から提案を受けて、その提案で市の希望も出して、それを飲んでいただける民間の整備ということ、募集をさせていただいて、それで整理をしていこうと。そのために、計画も再度見直しをさせていただこう、そういう手順で今考えてるところでございます。

【市民】

私が心配するのはね、南草津ですわ。南草津の南側に、同じように大きいね、草津市が造った建物があるんやけど、結局、賑わいをと言うとってね、あるいは官庁関係のばっか入ってきてね、何してんだかわからへんようになってるんですわ。だから、そういうことにならんようにね、こっちはやって欲しいという気があるわけです。それを、税収を狙いながら、そういう形をどうぞやって欲しいなと。これは意向ですわ。そうでないとね、こんな一等地にね、何も無いわって今までの恥さらしやから、それを挽回するためにも、税収を見込めるような、建物を造ってもらいたい。しかも、ガラガラでない建物で。私はその具体的にというね。私はもうマンションに売ってしまうんじゃないかと非常に心配するんやけども、それはそれで一つの方向やんか。けども、一応

そこら辺を踏まえてね、上手にね、まだ見つかっていないからとやかく言いませんけども、上手にやってもらいたい。一等地やねんから。なんせ。しかも目玉の場所やからね。そこを上手に使ってもらわないと、これは恥さらしもええとこやで。

【駒井】

ありがとうございます。

【市長】

■さんおっしゃった通りでございます。

公が建物を建ててテナントを呼ぶと、先ほどおっしゃったような形になる可能性が十分あると思います。そういうことを踏まえた上で、きちっとこれから、整備する方向で考えさせていただきま

すので、貴重なご意見として承っておきます。
先ほどちゃんと言われましたけど、駅前に体育館とかそういうものを整備するのは、全然考えておりませんので、あわせて申し上げておきます。

【小池】

はい、すいません、大分時間が迫ってまいりましたので、手短に、お願いします。全員、順番に当てさせていただきます。

【市民】

パネルを用意しました。裏も表も同じのが貼ってあります。この説明の中で、市内の方と市外の方、通院が数字として出されてると思うんです。パーセントとして。そのうち自動車が、57.5%になってるんですが。今現在ね、通院で一番多いのが、野洲学区51人、次が北野学区27人。祇王学区が22人、三上篠原で8人。というふうな形で今通院のね、調査されましたでしょ。121人の。121人のうち、市外の59人は省きました。市内の状況がわかるように。それで移動手段としては、自動車・バイクが79人。徒歩・自転車41人、自動車21人。送迎が。いうふうな数字が出されております。そのうち、学区ごとにどうなってるのかいうのを作りました。学区としては、野洲学区が徒歩・自転車というのが29人おられます。全体の57%。北野学区は、自動車・バイク、自転車が6人、いうことで、22%。で、祇王のところは、やはり野洲病院までは遠いので、ほとんどが自動車・バイク、というのが現状です。

何で市外を外したかという、59人の市外の方は、もうほとんどが、自動車だった。分母を大きくすれば、そういうふうな状況がちょっと、あの市内の状況がわからないので、211人のうちの59人を抜いたら、こういうふうな状況になります。

だから、この野洲のね、野洲の57%の方が、野洲学区の57%の方が、徒歩というふうな形になると、とても、温水プールの跡地のところまで、徒歩ではいけません。

そうすると、車。車に乗れる方はいいんでしょうが、乗れない方はタクシーで行かなければならない。いうふうな状況で、今、或る地域の方も、駅前まで行ってシャトルバスに乗ってというふうな、そんなんでは、もう間尺に合わないので、タクシーで行かんならん。

けどそれはね、すごくお金がかかるんですよ。タクシーを使うというのはね。だから、年金暮らしでどんどん年金が下がっていったような状況の中での、医療じゃなくって、通院するお金、それがすごくかさんでくる。いうので、皆さん本当に駅前で何とか本当に建設して欲しいいうことを切実に言われるんです。

そういうところをどういうふうにな、車が大多数で言われますけども、それをどういうふうにするのか。さっきの説明で、タクシーと介護タクシーとか、いろんなことを言われましたね。けど、今、それ野洲でしっかりと機能しておりますか。絵に描いた餅と違います。

そこら辺が、説明とね、皆さんに本当にこういうふうやってる、だから、これでいけるっておっしゃるならわかるけども。そこら辺をどういうふうにな今の現実と重ね合わせて考えておられるのか。説明をどうされてるのか。ていうのがまず第一点、お尋ねしたいと思います。

2点目は、駅前よりかプールのところの方が、多額かどうかという、あのグラフの数字がありますね。その中に、5,800万円プラスになると、ちょっとぐらいプラスになるんかな、というふうにな、中身をよく見るとね、Bブロック用地の利ザヤで8,900万円マイナスになってます。

Bブロックだけ売却、そんなことないやろ、あそこだけ売却なんてできませんよね。当然、AもCも売却というのが、これ前提になったこの数字と違うんかな、というふうにな疑問を持ったんですけども。それに対してどういうふうに見解を持っておられるのか。今、文化ホール、小劇場も統合していく。そういうふうな中で、文化ホールと、また小劇場も、みんな売ってしまうんかみたいなね、あそこ全部、民間に売却してしまうのかなというふうなね、なんかどンドン、そういう心配が膨らんでくるんですけども。そこら辺の将来的なところ辺は、もう市長はね、皆さんに提案をしていたいて、それでって言われるんですけども、その皆さんに提案っていうのが、なんかよく見えないんです。昔、あそここのところね、どんな開発しようか、どんな町にしようかっていう形で、フォーラムを作られましたよね。私も3回ほど寄せてもらいました。こんな町にしよう、あんなんにしよう、みんなだね、いっぱい案を出して、出来上がっていったんですよ。

だから、こう見える形でされるんやったらわかるんですけども、今回のプールの跡地の部分かてねね、何かピョーンと行ってしまったような感じで。それが、あの何とかそれを後付けでね、こうやああや言うてくっつけたみたいなね、そんな思いがするんです。もっと皆さんに見える、そういうオープンところで検討をされるんだったらいいんですけども、何か市長のバックアップの方の意見ばかり聞いてんのちゃうかな、というふうな勘ぐり、私の勘ぐりです。オープンにされないから、そういうふうな部分が出てくるですよ。そこらあたり、本当にオープンにな、検討をしてもらわないと、懸念は払拭できません。

【小池】

すいません、お住まいの場所と名前を…。

【市民】

すいません、北野学区の■■■■と言います。

【駒井】

ありがとうございます。

順不同になりますけども、今伺いいただきましたことについて、ご回答申し上げます。

まずタクシーなどがですね、絵に描いた餅ということでしたけれども、現実、高齢の方の移動手段としては、やはり車が中心になっている。しかしタクシーは高い。もちろん高い。運賃は。で、野洲市の場合は、コミバス、おのりやすを、すごく充実することが叶っております。7路線現在あると思うんですけども、この路線については、非常に重要で、市の財産であると思います。重要なサービスであると考えております。当然、タクシーのみに頼るのは難しいと思うんで、おのりやすを充実させていく、病院に迂回させていくとか。あと冒頭から申し上げますけれども、本当に計画していますけれども、駅からわずか6分で到達する場所ですので、駅との直結の輸送手段、これはもう現実化に検討していきたいと考えているところです。

あと、5,800万円プラスのBブロックの利ザヤと書いた根拠ですが、Bブロックだけを売るということではなくて、駅前の土地は1万㎡ほどです。その約3分の1がBブロックということになります。で、概ねそれぐらいの広さは、駅前の民間との活用の中で、少なくともそれぐらいのところは売却対象としてなってくる面積ではなかろうかということでございます。で、なぜBブロックの利ザヤと、Bと限定して書いたかと申し上げますと、それまでそこに病院を作るという予定地であったからでございます。申し上げますように、これから市民の皆様のご意見を聞いて、駅前の計画は練られていくわけでございますから、これは決定ではなくて、試算の一つの手法というようにご理解を頂ければと思います。

あともう一つですね。■■■■さん、なかなか大きなグラフを作ってくださいまして、ありがとうございます。奇しくも、私もグラフを用意してございました。■■■■さんのご用意いただいたのは、通院者の学区別分布ですよね。101人とおっしゃいましたが、211人の通院者で、そのうち市外を除いていると。私が申し上げたいのは、似たようなグラフなんですけれども、実はこれ、市内の高齢者数、高齢者の分布でございます。ご覧いただきますように、野洲市の高齢者、これは実数ですが、6月1日現在の住民基本台帳ベースの実数ですけれども、兵主中里の中主、合わせての中主ですけれども、65歳以上の高齢者、3,300人おられて、実は、ここが一番、高齢者が多いんです。で、次が野洲です。で次は三上、次が北野、祇王、篠原です。北野を北野1、北野2として、北野を半分に分けていただきましたのは、これは駅に近い方の北野もありますし、こちらの体育館の方に近い北野もあるということです。厳密に人口できちっと割りたかったんですけども、そこまで整理できなかったということで、あらかたですけれども半分で割らせていただいたところです。何を申し上げたいかという、今現在、■■■■さんがお話いただいてまとめていただいたように、今現在の通院者は、

当然、地元にあるから野洲学区が多い、これは事実であります。ただ、病院は50年、今の場所で経営をする見込みでございますから、野洲市域で、こういった人口分布となっているということを考えますと、今の駅周辺に、本当に必然性があるのか、ということになります。何でもそうですが、施設が移動したことによって、通所方法というのは、若干年月かかるかもわかりませんが、変わってくるものがございます。そういった点から考えて、申し上げたような場所が、優位性が高いというように考えをいたしているところでございます。

【小池】

はい、すいません。

可能な限り、たくさんの方のご意見をいただこうと思っておりますが、時間が大分押してまいりました。すいません、まず一番後ろの方、お願いします。

【市民】

野洲学区の■■■と言います。時間がないようですので簡潔に、ポイントだけ絞って話をします。

ほどから、市当局の説明がありました。説明は、あまりにもバラ色のような説明をされてね、いかにも、素晴らしい病院が出来るかのような話をされていますが、私は、駅前の病院にずっと賛成の立場でした。あそこは素晴らしい場所であるし、循環バスも7路線、全て野洲駅に入ります。それに、プール跡に病院を造って、そしてシャトルバスを稼働させる。何台、シャトルバスをご用意されるのですか。そんなん全然、具体的なことは言っておられませんね。1台ですか、2台ですか。1台確保するのに1,000万円、2台確保すれば2,000万円。そういうような費用がかさんでくるというのがありますわね。しかも、お年寄りには乗り換えないかん。野洲駅まで乗ってきて、2階まで登って、また降りてきて。そしてシャトルバスに乗って。そんな馬鹿な計画を、どうしてされるんですか。循環バスが野洲駅へ集まるように、引いておられるやないですか。それを引いてきたのは、野洲市の行政当局ですよ。循環バスを作って7路線をひいて。それを全く無駄にしようというのですか。そういう行政の無駄ばかりやってきているというのが、行政のやり方ですよ。私はそう思います。民間手法を取り入れて効率的なことをと言われるのだったら、そういうことを、もっと民間的な考え方でやっていただかないと私は納得できないし、この案に賛成できるものではありません。強行されるかもしれませんけれど。

これはそのそれ、もう一つは、先ほどもAブロックの跡地をどうするのかという話がされたかなあとあります。これは、文化ゾーン、文化を活用する場というようなことを言われましたけれど、それは市当局も具体的なことをわからないというような話ですわね。皆さん、行政当局の方々だから、よくご存じやと思いますけど、もう既に2回、市民ホール、小劇場、さざなみホール、この3施設を統廃合するという説明を、既に2回していますわね。私は2回目のときには、どうするのかなと、聞きに行きました。そしたら、担当部長が言うには、野洲の小劇場、文化ホール、これを解体してしまうと。みんなが聞いている前で言うんですよ、担当部長が。要するになくすということで

すよ、小劇場、文化ホールを。そしてさざなみホールに集約するという。文化一つとっても、Aブロックは文化ゾーンでやろうというようなことを、絵描いた餅のようなことを言っているけれど、実際は、文化ホールをなくし、そして小劇場をなくし、野洲は文化をなくしてしまうんですか。野洲の文化ホール、駅に近い。オーケストラの来るような劇場ですよ。関西フィルハーモニー管弦楽団、毎年来てるやないですか。施設が老朽化してるさかいに、設備が老朽化して…。

【小池】

すいません、非常に申し訳ございません。ちょっと、病院の方の懇談会をさせていただいているので、非常に時間が押してまいりましたので、一問目の回答を先にさせてもらってよろしいでしょうか。

【市民】

先ほどAが文化ゾーンと考えているという質問があったから、それやったら…。

【小池】

すいません。先ほどの文化ゾーンと言われますのは、Aの場所ではなくって、今文化ホールのある場所でありまして、ちょっと場所が違います。

【布施】

ありがとうございます。一点目の質問についてですけれども、コミバスとシャトルバスの関係でございます。枚数の多い資料の13ページにもちょっと触れさせていただいております。

駅からの距離を単純に比較いたしますと、2.2kmと駅前と比べますと距離は遠くなってしまいうんですけれども、駅から通院される方々の利便性を確保するというので、送迎バスの運行を予定させていただいております。

1台か2台かどうなんやということでございますけれども、1台の場合ですと20分間隔で往復することが可能になります。その運行費用でございますけれども、現在、野洲病院の周辺に確保しております職員駐車場の借り上げ費用、これが不必要になることから、その財源をもって送迎バスの運行をしてみたいというふうに考えております。

そしてコミバスは市の施策で展開をさせていただいております。7路線、仰います通りでございます。この路線バスに代わるコミバスは、新たなルートで病院へのルートを見直すことで、対応を考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

【市民】

もう1点、先ほどの話の途中で、切られましたので、もう一点だけ。今日配られた資料、37ページ。上の方ですけど、病院事業管理者報酬というのが挙がっている。これは幾らですか。そして、今現在、野洲病院は病院事業管理者というのは置いていないように理解をしておりますが、すべて

野洲病院の院長が、その職務にあたっているというに、私は理解しておりますが、それは違いますか。それと、隣の守山に総合病院があります。非常に大きな総合病院があります。ここには病院管理者は置いていません。野洲の、5万人の都市に、この病院に、病院管理者を置かないかへんような、そういうような条件があるのかどうか。それかて人件費がかかるわけでしょう。議案に挙げておられるということは。幾ら、管理者に支払われるんですか。その方は医師ですか。何もわかっていないんですよ。ところが、聞くところによると、この管理者報酬が破格の2,500万円と。野洲病院の院長が総て責任もって病院運営をしているのに、なんで病院管理者をわざわざ置く必要があるのか。病院長の上に病院管理者を置くというのは、指揮命令系統から言うたら、病院管理者の言うことを病院長は全部聞かなあかんということにならなあかん。そういうことをしようということで、それを挙げておられるのか。その辺は疑問に思います。これだけでは全然わかりません。何でこんなを置かなあかんのか。置いている市もあれば、置いてない市もあれば。そういうところをわかりやすく説明してもらわないと、納得いかない。

【駒井】

ありがとうございます。病院事業管理者についてのご質問でございます。

お幾らかというところのご質問の中で、ご自身がおっしゃったように、人件費という総額では、2,500万円になります。ただ、これには引当金であるとか、賞与が入ってまいります。それから、医師、ドクターで管理者を想定してございますので、先生としての報酬を除くと、管理者としての純然たる報酬は、ちょっとすいません、今日、手元に資料がございませんですけども、ずっと下がってくる。2,500万円のうち相当額の部分については、医師としての、ドクターの確保費用というように解釈頂いたらいいかと思っております。

あと、管理者の設置につきましては、県内にございます自治体立病院を見ると、規模の大小ではございません。例えば高島市立病院がございませけれども、あそこについては野洲市民病院とほぼ同じ200床程度でございませけれども、管理者を置いておられます。それは、病院のというより、そのまちの医療政策によって、管理者を置くか置かないかが判断されています。

例えば高島市民病院の病院長、高山先生でございませけれども、高山先生は病院の事業管理者ですけども、はっきりこう仰ってます。高島市の地域医療の総合的なマネジメントをするのは私の役割なのだ、とようにご挨拶述べておられます。我々としてもそれ相当の識見の、相当な識見のあるお方を管理者としてお迎えいたしたというふうにご考えておるところでございます。

そういったところで当然、野洲市民病院のスペックも向上するというふうにご考えており、管理者の報酬以上の効果が当然あると考えております。今までずっと市長が管理者の役割をしてきたのですが、そういう病院というのは、本当に稀でございます。今は、野洲市には副市長が置かれています。そして管理者も置かれると。当たり前のことです。ご認識をいただきたい。

【小池】

ほか、新しい形でというか、おられましたら…。

【市民】

木部の■■■と申します。

先ほど次長の方から説明をいただきまして、いいことばかりをお話をされている。こういうことに困ってるんだとか、そんなこともあれば、私は聞きたいと思います。

また、市長がおっしゃいましたように、せっかく、前の時に住民投票をとったのに、50%にほんのちょっと届かなかったので開かなかった。その時に私は、だいたい近所の方々に聞いてみたんですけども、今の体育館から消防所の間のところ、中主の人間は、このぐらいに建てた方がいいというご意見が多かったです。そのときにやはり開けておけば、私はよかったと思います。そやなかったんで。

【駒井】

ありがとうございます。ご質問2点かと把握いたしてございます。

まず困っていることとございますけれども、今回の病院の提案内容については、今のところエビデンスを得ていないんですが、そのための予算を認めていただいて、7月、8月に基本計画の検討に入った後は、おそらく、確たるものが確立できる一定の自信を持って進めております。

困ってるというところとちょっとあれなんですけども、ぜひとも市民の方には、我々ももっと情報公開をさせていただきたいと思っておりますので、市民の方にはいろんなご意見、ご批判、ご忠言でも結構でございますのでもっとご意見をいただきたい。そしてこの内容について盛り上がっていただけるとありがたいなと考えている状況でございます。情報はどんどん公開してまいりたいと考えております。

それともう一つ、住民投票の話でございますけれども、50%いかなかったということでしたが、先ほどもご意見いただきましたけれども、何度もやるものではない。基本的には日本の民主主義は議会制民主主義でございますので、議会制民主主義のオプションとしてあるのが住民投票、直接民主主義の制度だと認識してございます。ですから事ある毎にするものでは決してないと私は認識してございます。前回も大きなニュースになったところとございましたが、住民投票をしたときに、野洲市の歴史にも残るような住民投票をしたときに、50%いかなかったというのも、野洲市民のご判断ではなかろうかなと考えております。まだ数年しか経っていない中で、改めて住民投票をする必要はないのかなと、これは私が考えるところでございます。以上でございます。

【小池】

すいません、当初1時間半と思ったんですが、もうまもなく2時間です。すいません、申し訳ないですけれども、あと1名の方。

【市民】

執行部の皆さん、連日ご苦労様でございます。

先ほどは市の方から、担当次長の方から、新しい病院での整備方針案、詳細な資料を作っていただいて、説明をいただきました。一定、理解が出来ました。

ちょっと視点を変えましてですね、先日、新聞報道がなされました。6月10日付でございまして、私もそれを見させていただきました。市長より、新候補地を、医師会に説明された結果の記事が報道されておりました。その中で、気になった点がございまして、確認の意味で、質問させていただきたいと思います。

一つ目は、プール跡地での整備については、守山医師会は反対の意向が表明されたと、記事にありました。これは、医師会全体の総意として、理解してよいものかどうか。また、地元の野洲の先生、ドクターの皆さんの意向はどういうものなのか。これらの真意についてですね、お伺いしたいなと思います。

また、医師会との合意形成はですね、図れない場合に、どのような対応を考えておられるのか。そのへんもちょっとお聞かせいただきたい。

そして、現場のドクターあるいは看護師の意見が全く、全く反映されていない。こうした記事がございました。どのような、現場ではですね、意見が流れているのか、反映されていないのか。その主な内容について、可能な限り、できるものならお聞きしたいと、このように思います。よろしく願いいたします。

【市長】

新聞報道で、医師会の合意形成ということで、医師会は総意として今の所には反対だと。私も新聞記事を見ました。しかし、私、当然、医師会の理事会にお邪魔して、今の提案をさせていただきました。大変厳しいというか、今までAブロック、駅前でということで進めてきたのにということで、反対は確かに多かったんですが、野洲で開業されておられる先生方からは、一定、今の体育館のところに合理性があるんじゃないかな、1日も早く進めてほしいと。場所はともかく、1日も早く進めてほしいと、比較的、全員じゃないんですけども、野洲の開業医、理事の先生方からは、手前味噌ですけどエールを送っていただいたような感じなんですけども、守山で開業しておられる先生方からは、比較的厳しいご意見でございました。

チラシを出されたんですですけども、皆さんのところにも入ってたと思うんですけども。プールではできないという。あれは、医師会としては出してないと、言われました。医師会としては出してない。実現する会として出しておるものですよというようなことは言われましたですけども。

今後も、医師会に対しては丁寧に説明をさせていただこうと思いますし。冒頭の私の挨拶の中でも申し上げさせていただきましたが、野洲市内で開業されておられる先生方のご意見もお伺いした上で、プール跡地を進めていくことも申し上げさせていただきましたけれども、やはり地元の開業をしておられる先生方も、まず第一ではないかなと。ちょっと語弊があるかもわかりませんが、ご意見をお聞きするのが一番ではないかなというふうに思っています。

合意形成が得られなかったら今後どういう対応していくのか、ということなんですけども。とにかくご理解いただけるように、ご説明に上がるということで、考えております。

病院スタッフの意見って言うんですけど、これは場所がここで決まって、いざこれが進んでいく中で、当然病院、病院のスタッフも意見を聞いていきます。で、その都度、その都度というか、熟考したときも病院の方へ行って、病院の職員さん相手に、いろんなご説明、定期的にはさせていただいて、そんなに数は多くないんですけども、説明させていただいております。実質、場所を選ぶ段階から職員1人1人に、どこがいいですかなんてことは普通、どこの行政もしないと思います。やはり執行部、その担当がまず決めていって、ここでどうだろうという専門的な意見を各部署に聞いて、そして病院スタッフには、その時点ではしっかりといろんな意見を聞いていこうと考えております。

以上です。

【市民】

すいません、1点だけ、1点だけ教えてください。

もう早いこと病院を作ってほしいというのが、皆さんの意見ですから。このプール跡地に決めはった中で、何で、当初、検討する中でね、駐車場の方でいろいろと検討されましたやん。それやのに、わざわざこの細長いプールの跡地で、建物がZ型になる。前の検討の中では、駐車場が7,600㎡あって広い。だから、広い駐車場用だから余裕があって、建物が自由に考えられます。こういうメリットがあります、ということ言ってたんですよ。それを何でわざわざこんなところに出すのか。

【市長】

何で、何で最初するときですね、5月のときの話ですよ。

【市民】

ちゃうちゃう、5月と違って、プールの跡地の。細長いところでしょ。

【市長】

いや、その最初にも、裏でって言うときでしょ。

【市民】

違う違う。このときには、そこは7,600㎡の大きい平地で、十分に病院の建物を自由に考えられる、いいとこなんです、これがメリットだと。今の体育館の横がね。

【市長】

裏がね、体育館の裏がね。

【市民】

だから、駅前からこっちもってくるんだったら、それは構へんねんけれど、なんでわざわざあんな細長いところにすんのって。

【市長】

あの決めた当時は、まだ建ってたんですよ。プールがまだあった状態でしたので、解体を進めていた状態なんですよ。そういうことが想定できなかったというのは、正直なところですよ。

で、あの狭いっておっしゃるんですけども、現地見ていただいたら、もう全然そんな狭くないですよ。

【市民】

いや私ね、プールは何回か行してもらって、プールはよく使ってたんですよ。つい最近、去年か今年やったか、1月に消防の訓練で行った時にはもう、プール潰れてたんですよ。その時に、意外と狭もう感じたんやわ。建物があったときは、大きい建物があったよなと思えたけれど。

それともう一つ。体育館の二階の通路かなんか、今、ありますやん。あれを撤去するという話やけれど、逆に今のそのプールの跡地のところに立体駐車場を建てればね、そのツールを使えますやん。何でそういうなんを考えてくれないんだろう。

【駒井】

ありがとうございます。市長が申し上げたことの補足も含めて申し上げますと、6,400㎡でございまして、先ほどご覧いただきましたように縦170mですから、確かに形状は長方形になりますけれども、広い長方形です。狭いところに押し込むような土地では決してないということです。長方形ではありますけども、広くて、Zの病棟ということなんです。

裏の駐車場だったら四角い土地やさかいに、というご提案だと思うんですけど、病院の病棟の形というのは、実は四角いと、むしろ作りにくいんです。ご承知いただいているかもわかりませんが。当然、病棟ですので両側に窓が必要になってきますので、I型、Z型がいい。前のAブロック病院でも、わざわざ四角い土地やのに、病棟はH型にしたんです。長細いということは、詭弁に聞こえるかもわかりませんが、病院を整備するのにあたっては、そんなに悪くない形ということです。ご理解いただきたいと思います。

また駐車場の方に持って行きますより、こっちの方がいい理由は、こちらの資料の中で申し上げましたけども、もう既に1 m 嵩上げができてます。駐車場の方は浸水地域になっておりますが、プール跡地は浸水リスク0です。

あと駐車場に病院を造って、ここに立体駐車場というご意見なんですけれど、最大の要因はね、接道なんです。6メートルの市道に面してますので、この土地。進入も含めてですね、この前に持ってくることで、この市三宅小南線が接道としてとれる。大きなメリットです。ちなみに裏の駐車場に病院を持ってくると、ここまで文化財の包含地にひっかかってしまうということと、接道が横の細い道になってしまうんですね。この細い道は5mくらいしか幅がなくて、もしここに計画するんやったら、この道も拡幅しないとイケない。これ、費用はだいたい弾いていただけたらと思いますけれども。そういった点ですね、体育館横の、このプール跡地は、本当に広いです。本当に広いですし、高圧線ありますけども、今回検査した結果、大半のところは使えます。問題なくいけますので。

【市民】

今のやつで、進入道路は5mで狭いとおっしゃるけれど、いつのときの部長会議か何かの中で、周りが田んぼやさかいに拡幅できるような形で考えたらええやないか、っていう書き方がしたったけれど、ね。そういうのも考えたら、そっちの方がいいのかな、という思いをしたもので。ま、意見として聞いてください。

【小池】

ありがとうございました。

すいません、だいぶ予定した時間を超過してしまいました。もし他にご質問ございましたら、担当の職員、可能な限り残らせていただきますので、個別にお願いいたします。

それでは最後に、閉会にあたりまして、副市長の佐野よりご挨拶申し上げます。

【副市長】

副市長の佐野でございます。

今回市民説明会ということで、市内7ヶ所で、開催させていただいております。正直、厳しいご意見であるとか、課題であるとか、いろんなご意見を頂戴しておりますけれども、市民の方から直接ご意見を頂く機会、大変重要だと思っております。

いずれもですね、より良い病院を造っていこうと、そういう気持ちでいただいてご意見ということで、受け止めさせていただいて、しっかりとそれを受け止めさせていただいて反映していきたいと思っておりますので、今後も引き続きご意見をいただきたいと思います。

本日はありがとうございました。